

# 「やらされ感」払拭が出发点



7

場で3次元コンピュータグラフィックによる施工管理を経験し、現場の工程管理を可視化するバーチャルモデルをテーマに修士論文を書き上げた。02年4月に入社した西松建設では九州支社に配属され、土地区画整理事業造成工事でGPS（全地球測位システム）測量による出来形管理システムを自ら考案するなど、現場の生産性向上を突き詰めてきた。

「情報が集まる東京で挑戦したい」と意を決し、オートデスクに転職したのは05年。当時はまだ国交省が電子入札や納品、情報共有を志向するCALIS/ECの時代だった。ようやく3次元の時代が来る。12年に国交省がCIMの試行導入を打ち出したことで風向きが一変したことをいまでも鮮明に覚えている。初年度の試行プロジェクトのすべてにコンタクトし、3次元データ活用の有効性を説いた。

「建設生産のプロセスは大きく変化する」と確信している。業務の流れによって働き方は変わり、仕事に対する新たな意識も芽生える。いまは業務に追われ、現場に向く機会が少ない発注者も、デジタル化の進展によって遠隔管理などが一般化し、仕事の進め方も違ってくる。国を挙げてインフラ分野のDXが動き出したことも追い風だ。

これまでのネットワークを生かし、進行中のBIM/CIM現場に足を運ぶ中で、受発注者ともに「やらされ感」が広がっていることを懸念している。「BIM/CIMを使ってこれをした」という思いがひも付いていないために本気度が上がってこない。きちんと目的を持って取り組むことで価値は生まれる」と、各現場に呼び掛けている。

23年度の原則適用をきっかけ「コマツのスマートコンストラ

ことし7月に建設DX（デジタルトランスフォーメーション）の新会社として発足したEARTH BRAIN（東京都港区）で、エバンジェリストの肩書をもって動き出した緒方正剛氏は「現場に広がるBIM/CIMの『やらされ感』をいかに払拭（ふっしょく）するかが、一般化への出発点」と訴える。国土交通省が2023年度の原則適用を打ち出し、企業規模にかかわらず対応せざるを得ない状況になった。「BIM/CIMのエバンジェリスト（伝道師）」として、地域建設業を成長に導きたい」と前を向く。

熊本大学院の時にインターン生として参加した鴻池組の現場で3次元コンピュータグラフィックによる施工管理を経験し、現場の工程管理を可視化するバーチャルモデルをテーマに修士論文を書き上げた。02年4月に入社した西松建設では九州支社に配属され、土地区画整理事業造成工事でGPS（全地球測位システム）測量による出来形管理システムを自ら考案するなど、現場の生産性向上を突き詰めてきた。

「建設生産のプロセスは大きく変化する」と確信している。業務の流れによって働き方は変わり、仕事に対する新たな意識も芽生える。いまは業務に追われ、現場に向く機会が少ない発注者も、デジタル化の進展によって遠隔管理などが一般化し、仕事の進め方も違ってくる。国を挙げてインフラ分野のDXが動き出したことも追い風だ。

「建設生産のプロセスは大きく変化する」と確信している。業務の流れによって働き方は変わり、仕事に対する新たな意識も芽生える。いまは業務に追われ、現場に向く機会が少ない発注者も、デジタル化の進展によって遠隔管理などが一般化し、仕事の進め方も違ってくる。国を挙げてインフラ分野のDXが動き出したことも追い風だ。

「建設生産のプロセスは大きく変化する」と確信している。業務の流れによって働き方は変わり、仕事に対する新たな意識も芽生える。いまは業務に追われ、現場に向く機会が少ない発注者も、デジタル化の進展によって遠隔管理などが一般化し、仕事の進め方も違ってくる。国を挙げてインフラ分野のDXが動き出したことも追い風だ。

23年度の原則適用をきっかけ「コマツのスマートコンストラ



EARTH BRAIN

おがた せいごう  
緒方 正剛氏

施工箇所を把握するためのビューポイント事例



## 隙間時間つくり仕事の質向上へ

クシヨンは、生産プロセスの各工程をデジタル化するだけでなく、すべての工程をデジタルでつなぐことをコンセプトにしている。「従来の施工プロセスを置き換える縦のデジタル化だけでは意味をなさない。横のつながりを意識しなければ、全体最適の効果を導くことはできない。施工段階だけのデータ連携はBIM/CIMの一部分に過ぎない。最終目的である維持管理段階へどうつなげるか。それがわたし自身のミッションでもある」と決意する。

近年は自然災害が多発し、復旧の初動対応が重要になっている。「事前に現況を把握しておけば、復旧計画も立てやすいが、すべてのエリアで点群データを取得する大それた準備は必要ない。デジタル写真を撮影しておくだけで非常時への対応はしやすい。災害が起これば、地元の建設会社が真っ先に動く。現況を知る手がかりがあるだけで、初動対応のスピードは増す。維持管理データとは非常時の調査・復旧段階への貴重な情報であり、それが災害時のフロントロ―ディングに通じる」と訴える。

建設プロセスを通したデジタルの一気貫可能性検討

